

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立新座柳瀬高等学校)

w24

目指す学校像	生徒一人一人の学力を向上させ、社会に必要とされる「人財」を育成する学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 基礎学力の確かな定着と上級学校に進学できる学力をつける。 2 規律ある態度と自ら考え行動することのできる心豊かな生徒を育成する。 3 キャリア教育を充実させ、それぞれの希望に基づいた進路実現をさせる。 4 教育活動の公開、保護者・地域との連携をとおして、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月1日現在)		
年 度	目 標				評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	入学してくる生徒の学力には大きな幅があり、学力差に応じた指導を研究し、学力を伸ばすための授業工夫改善が求められる。 家庭学習の習慣化及び学習時間の増加は依然として重大な課題であり、改善に向けて取り組みが必要である。	生徒の学力差に応じた授業を研究し、基礎学力の確かな定着と学力を向上させる。	①一人一人の学力及び学習意欲を高める取り組みを実践する。 ②各教員が授業改善、授業力向上に取り組む。 ③各年次でミニテスト(ドリルマラソン)や考査前勉強会を実施すると共に各教科で補習の設定や課題を課すことで、家庭学習を習慣化し、その時間を増加させる。	①習熟度別授業及び基礎力診断テスト、資格・検定試験での成果。 ②県教育委員会及び大学、その他の団体主催の授業力向上に関する研修会への参加。校内オープン授業週間や研修の取組。 ③考査前勉強会や補習の実施状況及び家庭学習時間の増加。	①数学I少人数習熟度授業では発展クラスの学力向上と基礎クラスの基礎学力の底上げができた。標準クラスの指導に関して、工夫と改善が課題である。 ・ITパスポート試験4名・情報処理技術者試験2名(他検定200名以上合格) ②「学び」プロジェクトへ教員4名参加、年次研修教員研究発表 8名 ・オープン授業週間で教科を超えた授業工夫改善研修会実施(6月11月) ・「こども文化」の授業で、しらすぎ幼稚園実習体験(3年次11月) ・他校公開授業、研究発表会参加(8名7校) ③考査前勉強会(各5日間 各年次)、個別補習の実施(各年次) ・家庭学習を毎日する、週2、3日する:19.7%(昨年度比 0.7 Pts アップ) ・ドリルマラソン(各年次) 22回実施	A	・学習意欲向上のため授業工夫改善、研修会をさらに充実させる。(次年度より、コミュニケーション英語I少人数授業実施等) ・校外への研修会、公開授業へ積極的に出席し、授業力の底上げを行う。 ・補習、勉強会体制の充実
2	丁寧かつ継続的な生徒指導により落ち着いた生活環境が保たれている。高校生としての行動や言動に責任を持つことや基本的な生活習慣の定着を目指した指導は継続していく必要がある。 生徒個々の抱える状況が多様化しており、生徒の状況把握と実状に応じた指導が必要である。	規律ある生活態度を育成し、高校生活を主体的に取り組む姿勢を身につける。 また、個々の生徒の把握に努める。	①基本的な生活習慣の確立と整容指導の徹底により規律ある態度を育成する。 ②「在り方生き方教育」に適切な教材や講演を選定し、心豊かな生徒を育成する。 ③面談や校内支援委員会等の活用により個々の生徒の状態を的確に把握し実態に合致した指導を行う。	①基本的な生活習慣の確立と整容指導の徹底により、指導対象者の減少。(昨年度比較) ②適切な時期の実施と内容を充実 ③個人面談やスクールカウンセラー面談による生徒の状況把握とその情報を教員間で共有。(職員会議、校内支援委員会等)	①落ち着いた学習環境を整えることができ、指導対象者を昨年度並みに抑えることができた。 ②在り方生き方教育講座実施(12月 企画委員会) ③校内支援委員会(9回)職員会議等で情報共有:スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー派遣61件 特別支援コーディネーター派遣9件(和光特支、所沢おおぞら特支) ・車いすの生徒支援のため、介助員2名を雇用し、教職員とともに生徒支援体制を構築。 ・特別支援研修会年2回(車いす、カウンセリング等)	A	・継続的な整容指導により安心した学校生活を提供し、丁寧な生徒指導を行っていく。 ・今年度車いす介助員2名。来年度も継続して支援する。 ・校内支援委員会による様々な課題を持つ生徒への支援体制のさらなる構築
3	進学希望者が年々増加し、一般受験する生徒も出てきている。また、就職希望者は企業・公務員と混在している。3年間を見通したキャリア教育を体系的に計画・実施していく必要がある。 生徒の希望実現に向けて、1年次から面談等で十分に話し合い、進路実現に向けて資格取得や必要な学力の向上が重要である。	生徒の前向きな進路選択とその実現に向けた実力を育成し、希望進路を実現する。 学力向上と進路実現との関連性を強めていく。	①3年間を見通した進路指導計画に沿った各種行事を実施する。 ②面接及び作文指導、模試、資格取得等の指導により個々の進路実現を推進する。 ③学力向上と進路実現を目指し総合学習や放課後の課題指導等を充実させる。外部テスト等も積極的に活用する。	①学校評価アンケートの進路指導項目の評価向上。(昨年度A及びB評価95.0%) ②進路実現のための取組内容の充実。(昨年度、進路ガイダンス4回、総学における進路指導12回PTAによる模擬面接2回等) ③進路決定率の維持、向上。(昨年度進路決定率90.1%)	①学校評価アンケート進路評価A及びB93.1%(昨年度95.0%) ②進路ガイダンス 4回・総学における進路指導 10回 ・PTA模擬面接2回(7月9月)・オープンキャンパス(2年次8月) ・職場見学(1年次9月6社)・インターンシップ(2年次7~8月29名17社) ・教員対象進路指導研修会の実施(5月 進路指導部) ③進路決定率88.0%(昨年度同時期88.9%) ・卒業生を囲む会(2月)進路研究週間(2、3年次進学情報、求人票研究) ・基礎力診断テスト(全学年ベネッセ) ・適性検査(1年次実務教育出版)職業適性検査(23年次厚労省)	A	・進路行事の継続的実施と生徒への効果あるアプローチの検討及び実践を行う。 ・様々な課題をもつ生徒の個々の実態を踏まえ、丁寧な指導をしつつ、適切な進路選択ができるよう支援していく。
4	保護者・地域住民の学校への理解と支援は進んでいる一方、引き続き取り組む必要がある。 保護者アンケートへの回答率の増加に向けた働きかけを継続し、要望等を把握し、学校運営改善に取り入れることが必要である。 PTA等との連携を図る場を作り、保護者と共に生徒を育てる取り組みを進める。	開かれた学校づくりを推進する。 外部評価を学校改善により活用する。 保護者との連携をより強める。	①学校行事の広報活動の強化と情報発信の仕方を工夫する。 ②学校評価アンケートの分析により、学校の課題を改善していく。学校評価懇話会等の評価をさらに活用する。 ③PTA活動をより充実させ、教員との連携を強化する。	①ホームページの充実と迅速な更新を行い、中学生・保護者・中学校等の地域への積極的な情報発信。(昨年度アクセス数12万件で過去最高) ②学校評価アンケートの保護者回答数50%以上を目標。(昨年度39.7%) ③PTA活動の充実、教員との連携を強化。(PTA広報誌年3回発行 常任理事会6回理事会6回PTA行事11回)	①ホームページの内容充実(教務部):学校行事、公開授業 部活動の取組実績、大会実績等 更新回数 111回 教員対象HP更新研修会実施 更新者増加 本年度アクセス数 107315件(昨年度比月平均700件以上アップ) ②学校評価アンケート保護者回答数 27.6%(昨年度 39.7%) 自由記述欄回答数34件(昨年比6Pts アップ) ③PTA活動の充実 ・PTA広報誌年3回発行 ・常任理事会6回理事会6回 ・PTA研修旅行(6月 大学・専門学校見学)・朝の声掛けキャンペーン3回、 ・模擬面接指導へ協力(7月9月) ・学校連絡網メール活用(通年) ・10周年記念式典支援42名 教職員との交流会等年11回実施(渉外部)	A	・ホームページ等のさらなる充実を行い、保護者及び地域との連携をさらに深める。 ・立教大学との連携による主催者教育模範授業の実施 ・学校評価アンケートの回答の質の向上を求め、PTA活動及び学校行事への保護者の参加を充実させる。

学校関係者評価
実施日 平成30年2月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>授業では、生徒と教師の距離感が近くなく遠くなく、一線を引ながら授業を展開しているところが良い学習環境を作り出している。 外部機関や近隣高校への授業見学や研修等によって、授業工夫改善を進めることは素晴らしい取組である。生徒たちの学力向上に向けて、さらに取組を継続して頂きたい。</p> <p>授業見学を通して、学校全体が落ち着いた生活を送るのに良い環境を提供して頂いている。 校内支援委員会を中心に生徒の心のケアを含め、学習に集中できる環境を構築して頂いていることは高く評価できる。</p> <p>インターンシップや職場見学など実際の職場を見学体験して、進路選択を行うことは、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲の向上に繋がる。進路ガイダンスなどの進路行事も進路実現のために欠かせない取組である。今年度の成果を維持して頂きたい。</p> <p>保護者アンケートで生の声が多くなることは、学校への関心が高くなってきたことである。 ホームページでの地域へ情報発信は、中学生や卒業生に本校の普段の取組を理解して頂く重要ツールである。また、PTA活動を通して、保護者等の学校への関心をさらに高めて頂きたい。</p>